

教科	国語	科目	言語文化		単位数	2	履修学年	1	学科・コース	普通科・理数科 共通																				
教科書	「精選言語文化」（第一学習社）			副教材等	「古文単語330」（いいずな書店）、「体系古典文法」（数研出版）、「漢文必携」（桐原書店）			担当者	西山、平木																					
1. 科目の目標				2. 学習の進め方や留意点				3. 評価の観点と函中コンピテンシー																						
言葉による発力・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする （２）論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （３）言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う				古今の名文に数多く触れ、それらを鑑賞する姿勢を育てる。 言葉というものが持つ普遍的な価値を感じ取ること で、生徒各々の言語の捉え方を豊かなものにする。 古典の教材において、一読して概略を把握できるような、文法や句法の知識・技能を定着させる。 「読むこと」「聞くこと」から内容を把握し、「書くこと」に際して獲得した情報をさらに拡げていき、「話すこと」の機会によって自らの主張を適切に伝えることを学ばせる。				<table><tr><td></td><td>知識・技能</td><td>思考・判断・表現</td><td>主体的な態度</td></tr><tr><td>傾聴力</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>思考力</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>協働力</td><td></td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>先見力</td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr></table>				知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	傾聴力			○	思考力	○	○		協働力		○	○	先見力	○		○
									知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度																			
								傾聴力			○																			
								思考力	○	○																				
								協働力		○	○																			
先見力	○		○																											

4. 学習計画と評価規準

月	単元・学習内容	時間	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	オリエンテーション 古文入門 古文に親しむ 児のそら寝 絵仏師良秀	1 2 3	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 ((2)ウ)	・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 (B読イ)	・積極的に説話を読み味わい、叙述に基づいて話のおもしろさを伝え合おうとしている。 ・時間の経過による言葉の意味の変化を理解し、学習の見通しをもって調べたり説明したりしようとしている。
	漢文入門 漢文に親しむ 漢文の構造	4	・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。(2)ア ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 ((2)ウ)	・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 (B読イ)	・これからの学習に見通しをもって、我が国の言語文化に大きな影響を与えた漢文に興味・関心を深め、漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。
			【評価方法】 中間考査、小テスト	【評価方法】 成果物、中間考査	【評価方法】 学びに向かう姿勢
	近代文学入門 文学に親しむ 羅生門	5	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。 ((1)ア) ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ((1)イ)	・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 (B読オ)	・登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内容や展開を捉えようとしている。 ・典拠となった『今昔物語集』の説話と粘り強く読み比べ、作者の工夫をまとめようとしている。
	古文1 ものの見方をとらえる 徒然草	4	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 ((1)エ)	・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 (B読オ)	・本文中に表れた作者の批判・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている。
	漢文1 ものの見方をとらえる 故事成語	4	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ((1)ウ)	・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 (B読ウ)	・故事成語の由来と意味を積極的に調べ、調べた内容を工夫してまとめようとしている。
			【評価方法】 期末考査、小テスト	【評価方法】 成果物、期末考査	【評価方法】 学びに向かう姿勢
	古文2 表現を味わう 伊勢物語	3	・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解することができる。 ((2)エ)	・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 (B読エ)	・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。

	近現代 1 文学から思想を味わう 夢十夜 夏目漱石作品（読書課題）	5	・ 言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めることができる。 ((2)オ)	・ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 (B読オ)	・ 「夢」という設定の中での判断やその根拠を捉え、内容及び作品世界を解釈して説明しようとしている。
	古文 3 文化をつなぐ 和歌・俳諧	2	・ 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解することができる。 ((1)オ)	・ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 (B読ウ)	・ 和歌の修辞技法を進んで理解し、学習の見通しをもって和歌文芸の特徴を捉えようとしている。
	【書くこと】 レポートを書こう	3	・ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ((1)イ)	・ 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすることができる。 (A書ア)	・ テーマについて積極的に調べ、調べた内容と自らの考えを工夫してまとめようとしている。
	漢文 2 人物像から学ぶ 史伝	3	・ 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めることができる。 ((2)カ)	・ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 (B読エ)	・ 積極的に史伝の特徴を理解し、たとえ話における論理を説明しようとしている。
			【評価方法】 中間考査、小テスト	【評価方法】 成果物、中間考査	【評価方法】 グループワーク等の感想文
	古文 4 言語感覚を磨く 枕草子	3	・ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。 ((2)イ)	・ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 (B読オ)	・ 作品に表れたものの見方・考え方や美意識を積極的に理解し、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。
	漢文 3 多様な考えを学ぶ 論語	4	・ 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解することができる。 ((2)エ)	・ 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 (B読ア)	・ 『論語』が我が国の文化に及ぼした影響について理解し、孔子の理想とするところを粘り強く説明しようとしている。
	近現代 2 生き方を考える 城の崎にて	5	・ 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めることができる。 ((2)カ)	・ 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 (B読ア)	・ 作品に表れている死生観を捉え、内容を粘り強く解釈しようとしている。
	【書くこと】 エッセイを書こう	3	・ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 ((1)ウ)	・ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。 (A書イ)	・ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。 (A書イ)
			【評価方法】 学年末考査、小テスト	【評価方法】 グループワーク等の感想文、成果物、学年末考査	【評価方法】 グループワーク等の感想文
	合計	54	書く： 6 読む： 48 （古典： 33 現代： 15）		